

2016年3月期第3四半期 決算説明会



Money Partners Group

株式会社 マネーパートナーズグループ



本資料は、株式会社マネーパートナーズグループの事業及び業界動向についての株式会社マネーパートナーズグループによる現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。

これらの将来の展望に関する表明はさまざまなリスクや不確実性がつきまっています。

既に知られたもしくははまだ知られていないリスク、不確かさその他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。

株式会社マネーパートナーズグループは将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。

本資料における将来の展望に関する表明は、2016年2月2日現在において利用可能な情報に基づいて、株式会社マネーパートナーズグループにより2016年2月2日現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。



- I .2016年3月期第3四半期の決算及び事業の概況
- II .2016年3月期第3四半期の重点施策の進捗状況
- III .今後の目指すべき方向性
- IV .当社の経営目標及び株主還元について

I .2016年3月期第3四半期の決算及び事業の概況





2016年3月期第3四半期 連結決算ハイライト

2016年3月期第3四半期(2015/10-12) 連結決算の総括とポイント

- ① 口座数は、前四半期末より4,081口座増加するも、預り証拠金は円高の進展に伴う顧客損失の増加等により、前四半期末比6.3%減少。

総口座数	271,544口座	2016/3期2Q末比	2.1%増
預り証拠金	49,480百万円	2016/3期2Q末比	6.3%減

- ② 外国為替取引高は、前四半期と比較しボラティリティが低下した結果、前四半期比28.8%減少。

10-12月取引高	1,915億通貨単位	2015/7-9月比	28.8%減
-----------	------------	------------	--------

※取引高には2011年8月より開始したCFDに関する数値を含めております。

- ③ 営業収益は、外国為替取引高の大幅な減少の一方、取引高当たり収益性の向上により前四半期比減少幅は17.2%にとどまり1,342百万円に。
外国為替取引高の減少による変動費の減少はあったものの、営業収益の減少に伴い経常利益は、260百万円(前四半期比48.4%減)に。

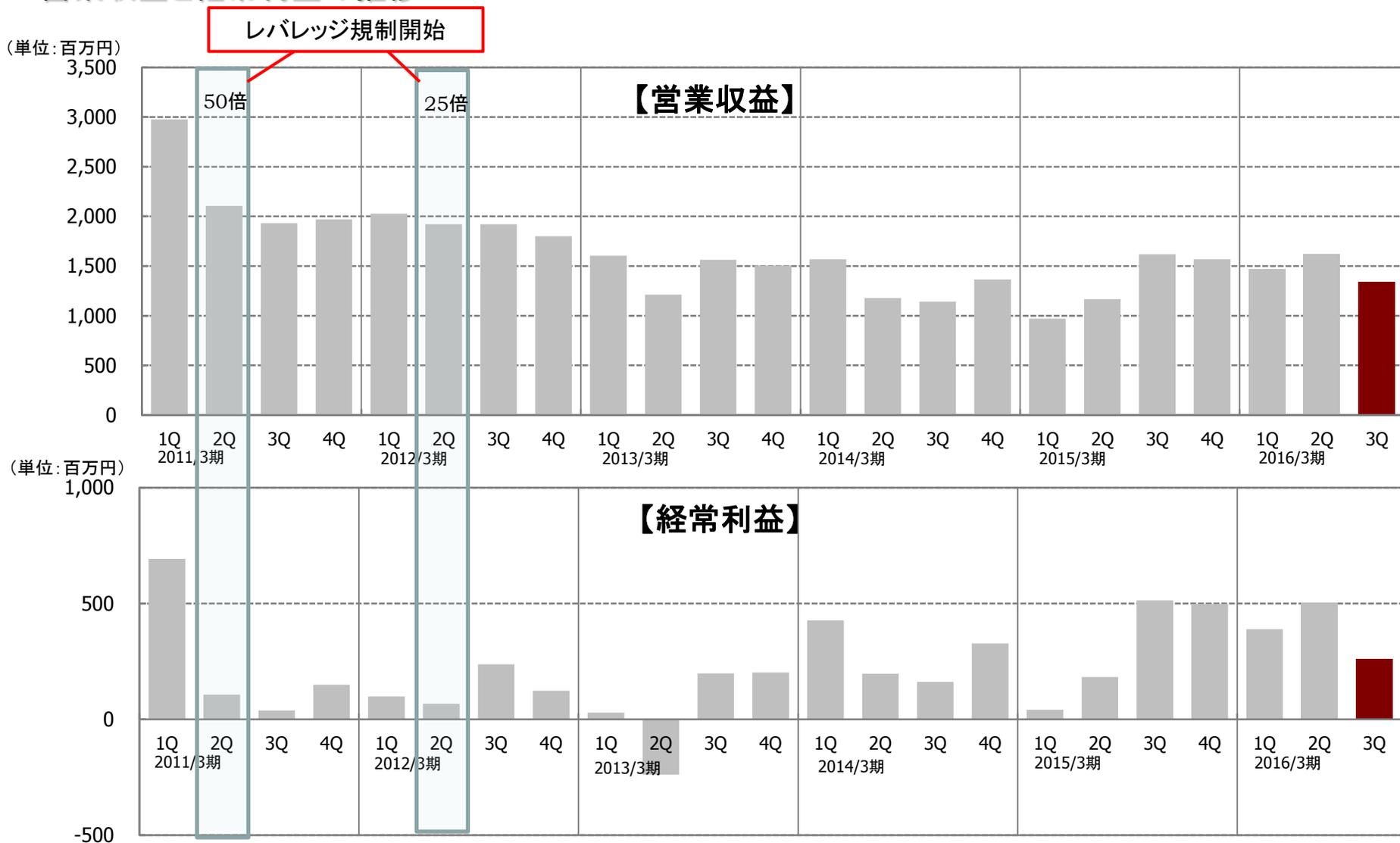
- ④ 親会社株主に帰属する四半期純利益は、前四半期比48.3%減の173百万円に。



レバレッジ規制開始以来の四半期業績推移

Money Partners Group

■ 営業収益と経常利益の推移





2016年3月期第3四半期 決算概況と影響ファクター

Money Partners Group

	2016/3期 2Q 【2015/7 ~ 2015/9】	2016/3期 3Q 【2015/10 ~ 2015/12】	前四半期 対比増減
外国為替取引高	2,691億通貨単位	1,915億通貨単位	▲28.8%
営業収益	1,621百万円	1,342百万円	▲17.2%
経常利益	505百万円	260百万円	▲48.4%

【損益影響ファクター】

前四半期比

取引高



収益性



販管費



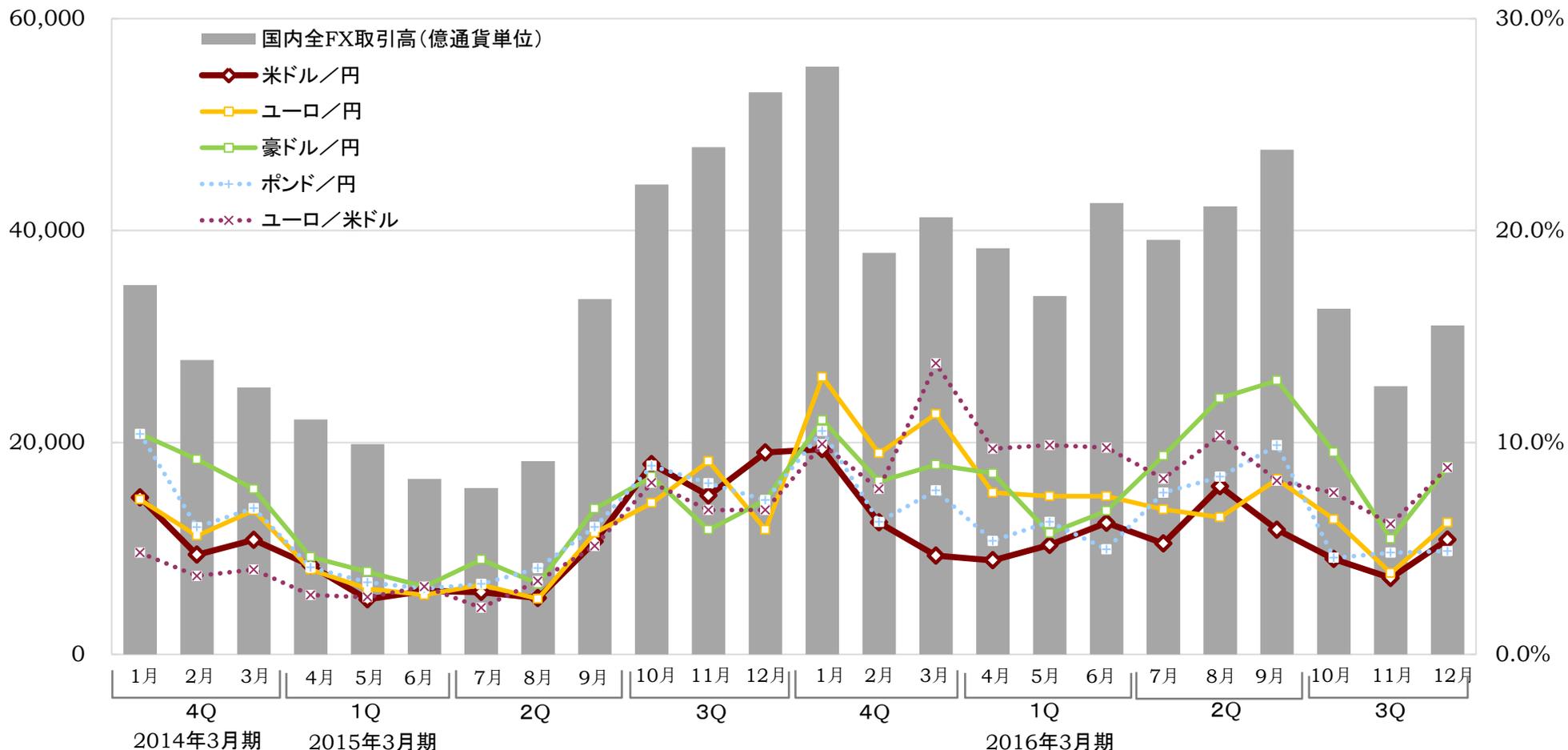
- ・ 外国為替相場は、前四半期と比べ総じてボラティリティは低下。取引高は前四半期比28.8%減と大きく減少。通貨別に見ると、米ドル／円は30%程度減少し、全体に占める割合は50%台半ばまで低下。一方、ユーロ／米ドルが前四半期比増加。その他の通貨では、南アフリカランド／円が、四半期を通じて急ピッチな円高ランド安で推移したこともあり、大きく相場が動いた前四半期並みの取引高に。
- ・ カバー手法の継続的改善による収益力の底上げにより取引高当たり収益性は向上。
- ・ 取引高の減少に伴う変動費の減少等により、販管費全体も減少。



FX市場の動向

Money Partners Group

取引高・主要通貨ペア日次平均ボラティリティの推移



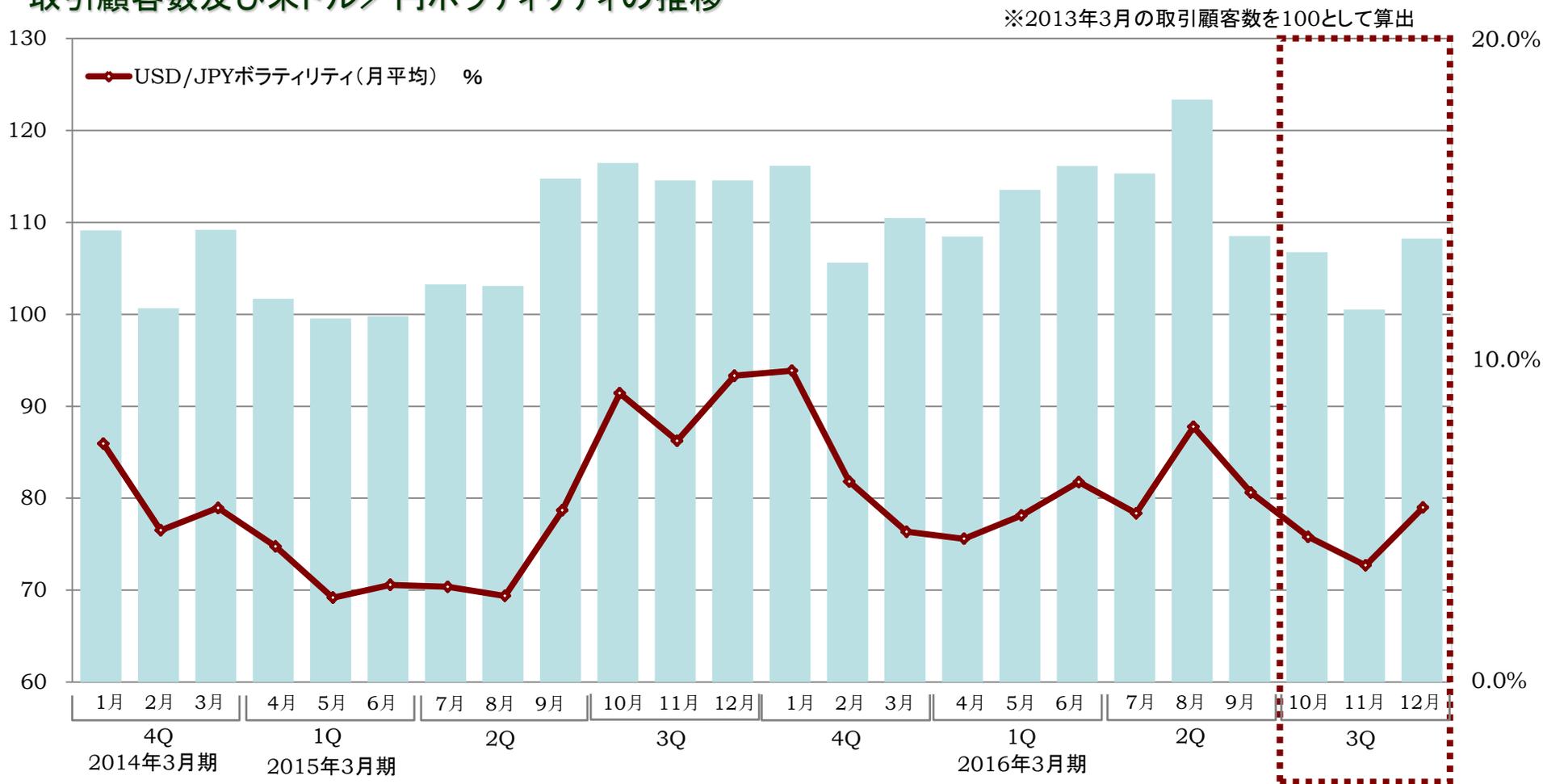
2015年8月に大きく動いた相場は落ち着きを取り戻し、11月にかけてボラティリティは低下。12月に入り円高方向で相場は動意付くも、四半期を通じてのボラティリティは、前四半期比低下。取引高も概ねボラティリティの状況に連動し、前四半期比減少。



取引顧客数の推移

Money Partners Group

取引顧客数及び米ドル／円ボラティリティの推移



外国為替相場のボラティリティ低下につれて取引顧客数も減少。
 また、8月の外国為替相場の変動による顧客含み損失の増加が、それ以降の顧客のリスク許容度を低下させたことも、取引顧客数に悪影響を及ぼした形に。



四半期業績推移

Money Partners Group

■ 四半期毎のP/L主要数値推移

単位:百万円

	2014/3期	2015/3期				2016/3期			前四半期 対比増減
	4Q (1月~3月)	1Q (4月~6月)	2Q (7月~9月)	3Q (10月~12月)	4Q (1月~3月)	1Q (4月~6月)	2Q (7月~9月)	3Q (10月~12月)	
営業収益	1,365	969	1,167	1,618	1,568	1,471	1,621	1,342	▲17.2%
受入手数料	2	2	2	4	4	5	15	14	▲7.3%
トレーディング損益	1,359	963	1,155	1,601	1,554	1,451	1,586	1,306	▲17.7%
金融収益	3	2	3	3	3	3	3	3	▲5.5%
その他の売上高	0	0	6	9	6	10	15	18	20.8%
金融費用	17	18	18	18	19	20	23	23	▲0.3%
売上原価	0	0	0	0	0	2	7	10	50.8%
純営業収益	1,347	950	1,149	1,599	1,548	1,448	1,590	1,308	▲17.8%
販売費・一般管理費	1,039	912	981	1,086	1,075	1,067	1,121	1,049	▲6.4%
営業利益	307	38	167	512	473	381	468	258	▲44.9%
経常利益	328	41	182	513	498	389	505	260	▲48.4%
税金等調整前四半期純利益	327	41	178	505	498	389	505	261	▲48.3%
親会社株主に帰属する四半期純利益	200	21	117	325	314	254	334	173	▲48.3%
営業収益経常利益率	24.1%	4.3%	15.6%	31.8%	31.7%	26.5%	31.1%	19.4%	

ボラティリティの低下に伴う取引高の減少に伴い、営業収益は前四半期比約17%減少するも、2014/3期4Qを若干下回る水準を確保。一方、販売費・一般管理費も変動費を中心に前四半期比減少し、営業利益は258百万円に。特段の営業外収支、特別損益は発生せず、経常利益、税金等調整前純利益も同水準に。



四半期販管費推移

Money Partners Group

■ 販管費内訳及び主要費目の推移

単位:百万円

	2014/3期	2015/3期				2016/3期			前四半期 対比増減
	4Q (12月~3月)	1Q (4月~6月)	2Q (7月~9月)	3Q (10月~12月)	4Q (1月~3月)	1Q (4月~6月)	2Q (7月~9月)	3Q (10月~12月)	
取引関係費	293	214	249	311	296	298	333	292	▲12.4%
人件費	242	225	233	246	245	235	245	239	▲2.5%
不動産関係費	154	154	161	156	158	156	155	165	6.3%
事務費	226	189	213	249	244	243	256	228	▲11.0%
減価償却費	98	94	94	95	96	91	89	89	0.3%
租税公課	15	15	18	17	21	21	24	23	▲3.7%
貸倒引当金繰入れ	0	—	—	—	—	0	6	▲0	—
その他	8	17	10	10	13	20	10	12	14.9%
販売費・一般管理費合計	1,039	912	981	1,086	1,075	1,067	1,121	1,049	▲6.4%
(主要な費目)									
広告宣伝費(※1)	158	91	113	132	118	122	141	106	▲24.6%
システム関連費用(※2)	290	247	285	332	330	319	343	318	▲7.2%

※1 取引関係費の一部となります。 ※2 取引関係費、不動産関係費、事務費の一部となります。

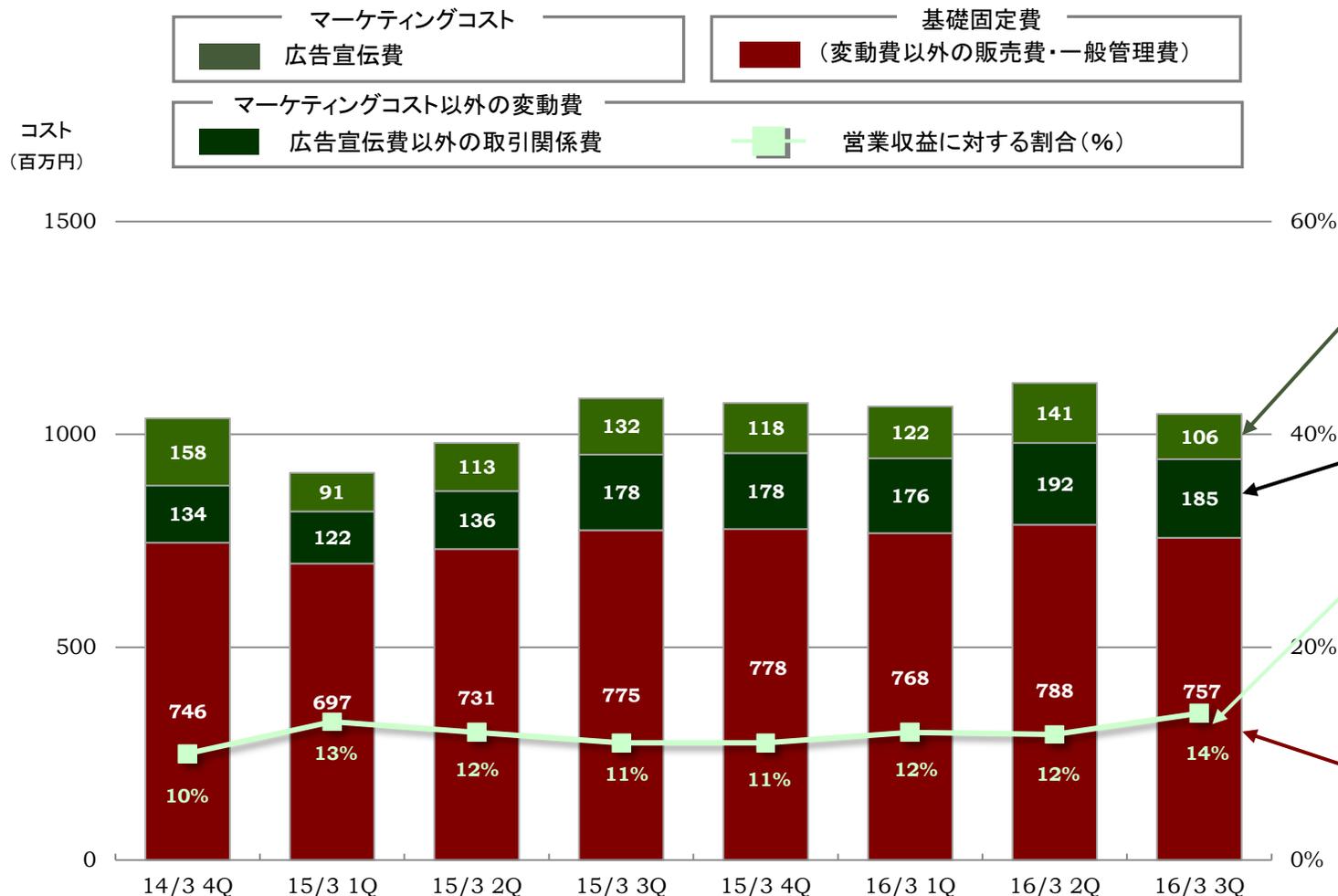
取引高の減少に伴い、変動費を中心に前四半期比減少し、販管費は1,049百万円に。前四半期に一時的増加した広告宣伝費は通常の水準に戻り、システム関連費用も概ね横這いの水準を維持。



四半期固定費・変動費推移と今後の動向

Money Partners Group

■ 主要な固定費・変動費の推移



費用対効果や業績状況等を考慮した費用統制を行っておりますが、2016/3期4Q以降も90~150百万円程度の水準を見込んでおります。

営業収益と一定程度の相関関係を有しております。

取引高当たり収益率等、様々な要因により変動いたしますが、2016/3期4Q以降も概ね10%台前半の水準を見込んでおります。

2016/3期4Q以降も、概ね2015/3期と同程度の水準での推移を見込んでおります。但し、一部変動費的性格のものが含まれており、営業収益の増減により、基礎固定費にも増減が生じる可能性があります。

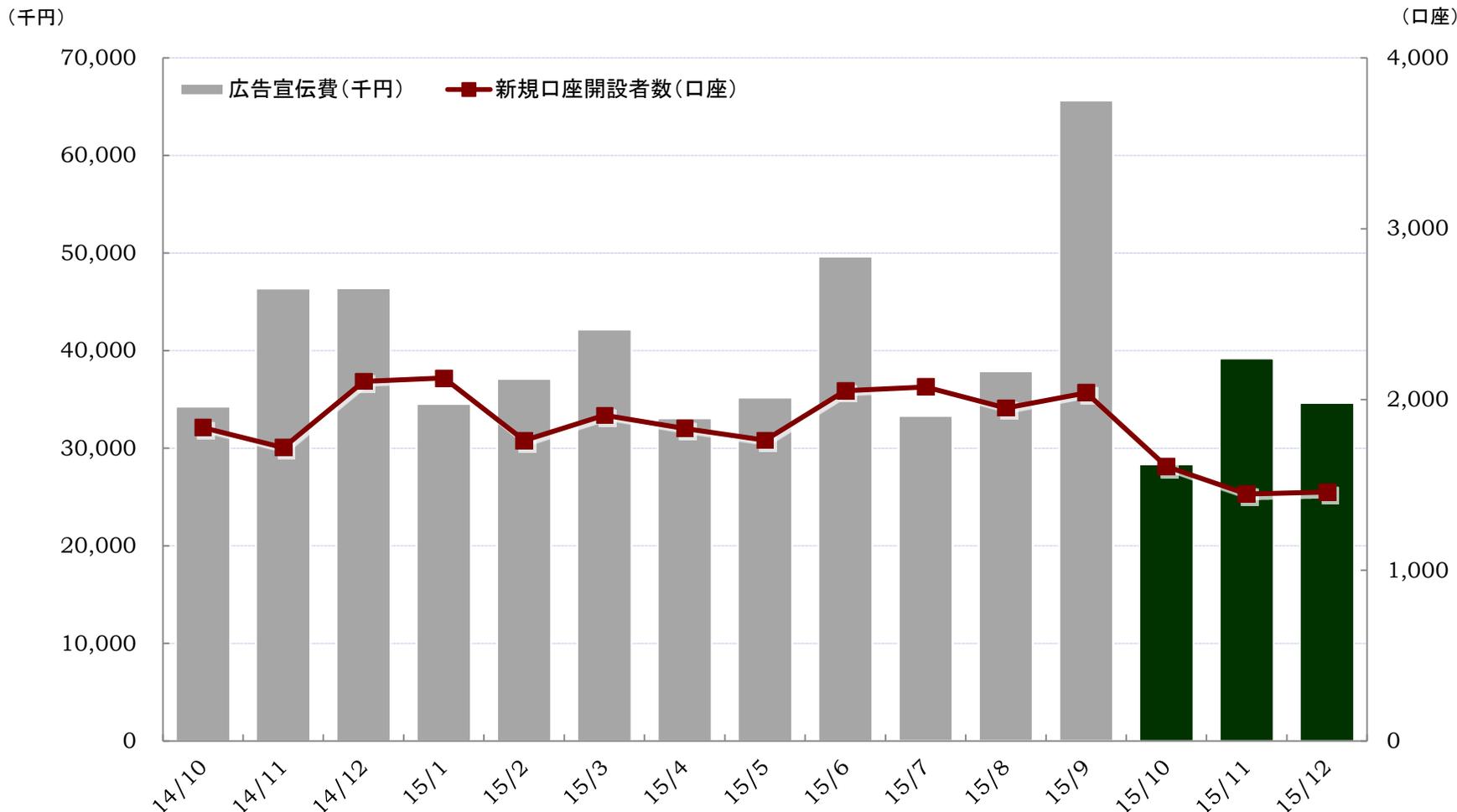
固定費・変動費とも、概ね営業収益(取引高)の水準に見合った水準で推移。マーケティングコスト以外の変動費の営業収益に対する割合の増加は、マネパカード関連費用等の増加によるものであり、当面は概ねこの水準で推移する見込み。



月次広告宣伝費の推移

Money Partners Group

■ 広告宣伝費及び新規口座開設者数の推移



9月に大きく増加した広告宣伝費は、通常の水準に回復。外国為替相場が高金利通貨を中心に円高傾向で推移したことによる個人投資家の様子見の動きもあり、新規口座開設者数は低調に推移。



月次業績指標推移

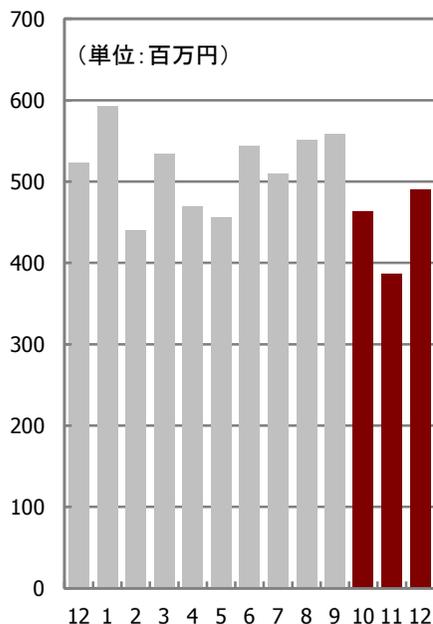
Money Partners Group

■ 月次営業収益、外国為替取引高、顧客口座数、顧客預り証拠金の推移

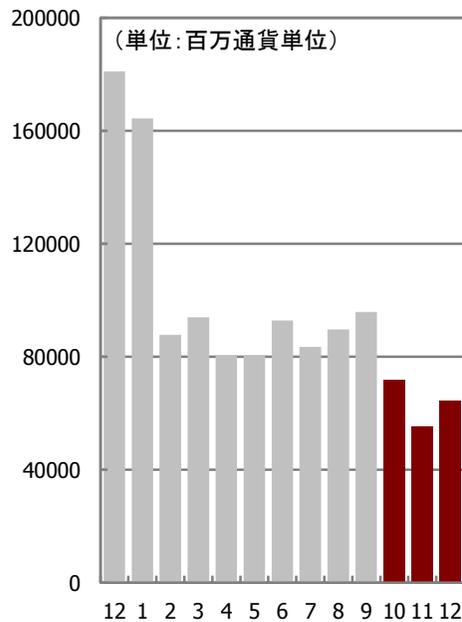
	2014年	2015年											
	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
営業収益(百万円)	523	593	440	534	470	456	544	510	552	552	464	387	490
外国為替取引高 (百万通貨単位)	180,985	164,450	87,835	93,958	80,634	80,504	92,881	83,564	89,674	95,887	71,822	55,460	64,288
顧客口座数(口座)	251,189	253,179	254,732	256,494	258,189	259,825	261,736	263,685	265,521	267,463	268,916	270,219	271,544
顧客預り証拠金(百万円)	47,359	48,114	47,653	47,961	48,896	48,707	50,101	50,236	48,253	52,815	51,725	50,355	49,480

※営業収益、取引高は、大証FXマーケットメイク業務に伴い発生した収益・取引を含んでおります。また、それぞれの計数には2011年8月より開始したCFDに関する数値を含めております。

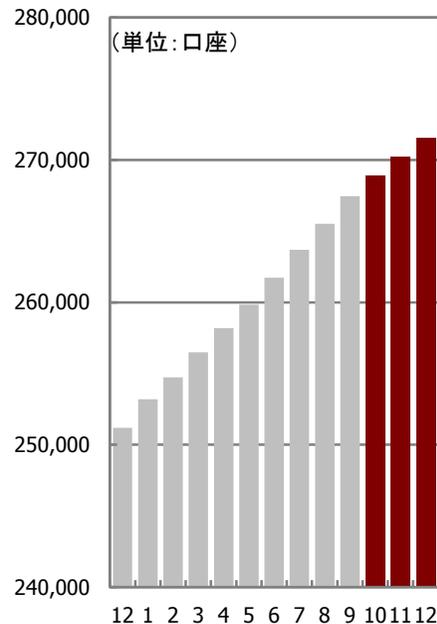
■ 営業収益



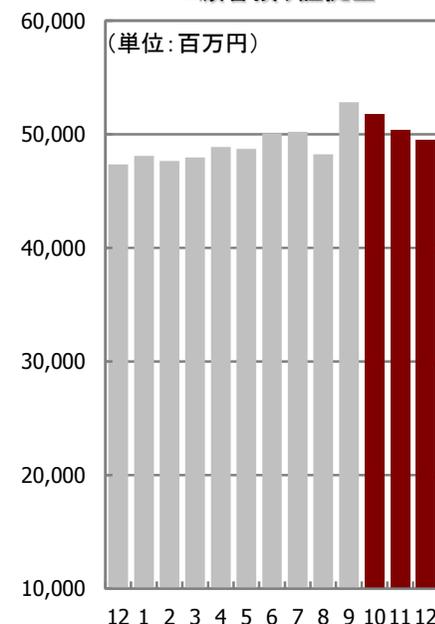
■ 外国為替取引高



■ 顧客口座数



■ 顧客預り証拠金



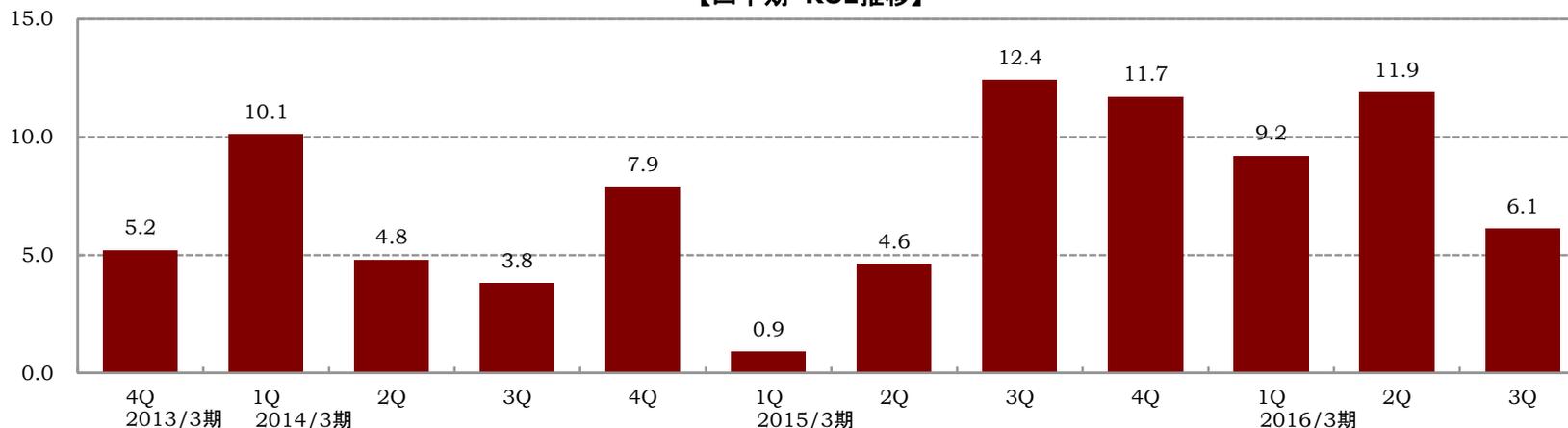


主要経営指標推移

Money Partners Group

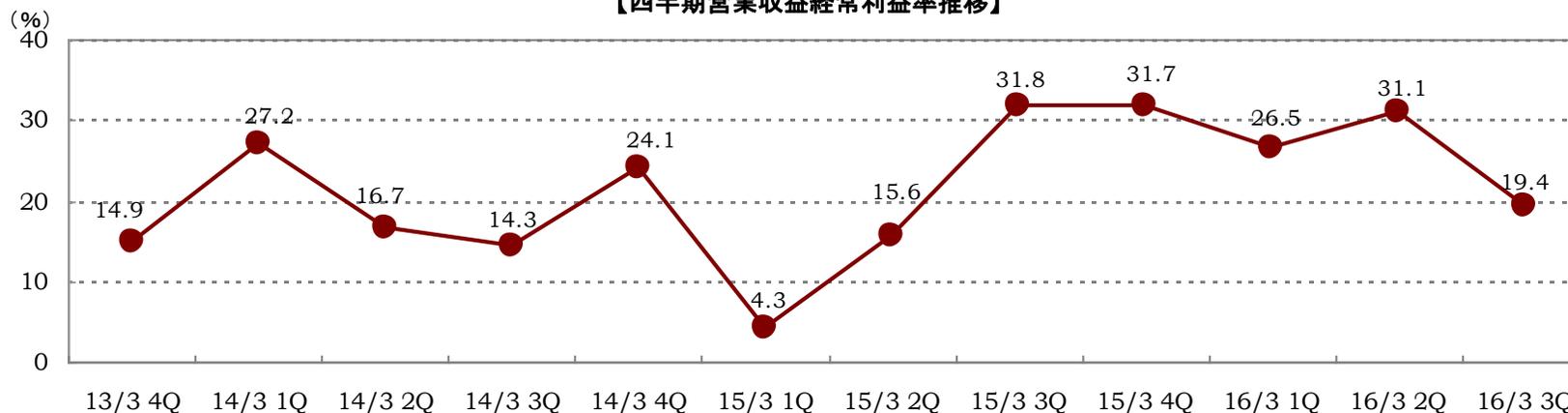
■ ROE及び営業収益経常利益率推移

【四半期 ROE推移】



※：四半期ROEは、下記計算式により年換算して算出しております。
 $ROE(年換算) = (四半期純利益 \times 4) \div ((四半期期首自己資本 + 四半期期末自己資本) \div 2) \times 100$

【四半期営業収益経常利益率推移】



Ⅱ.2016年3月期第3四半期の重点施策の進捗状況





2016年3月期の重点施策

重点課題

既存ビジネス

収益力強化

顧客基盤拡大
取引機会創出

新たなビジネス・
サービスの事業化

重点施策

- 実需層の取り込みによる顧客基盤の拡大
- 収益基盤の多様化とFX収益率の更なる向上

実需

- ★ ブランディング及び実需顧客等の取り込み
- ★ カード及び外貨両替サービス利用者層の取り込み

顧客サービス

- ★ 顧客向けサービスの改善
- ★ 新注文・新サービス・新機能の提供

収益

- ★ 収益性の継続的改善



重点施策の進捗状況①

Money Partners Group

ブランディング強化とマス戦略展開による顧客獲得

FX

取扱通貨ペアの追加

パートナーズFX、パートナーズFX nano

➡ 合計8通貨ペアを追加

- ・ユーロ/豪ドル
- ・ユーロ/ポンド
- ・豪ドル/ニュージーランドドル
- ・ポンド/豪ドル
- ・ニュージーランドドル/米ドル

nanoのみ追加(パートナーズFX既存通貨ペア)

- ・ユーロ/米ドル
- ・ポンド/米ドル
- ・豪ドル/米ドル

顧客からの要望に応え取引機会増加

スマートフォンから連続予約注文がスタート

「HyperSpeed Touch」、「HyperSpeedTouch nano」に連続予約注文を実装。



スマートフォンからの取引増加に対応



重点施策の進捗状況②

Money Partners Group

ブランディング強化とマス戦略展開による顧客獲得

カード

カード口座の堅実な増加

月次の新規口座数は、FXを超える水準に



月次の利用金額、両替金額は、累計口座数に応じて増加

海外旅行先のATMで現地通貨のお引き出し

+

マスターカードの使えるお店でショッピング&グルメ

振替

マネーパートナーズのFX口座

手数料 1通貨あたり0.0004通貨

マネパカード口座

未チャージ残高

チャージ

手数料 0円

外貨預りが発生するケース

- FX取引の決済時、スワップポイント
- 金融機関の外貨預金などからの外貨振込
- 外貨両替

11/26 株式会社大和ネクスト銀行と業務提携について基本合意

◆ 提携カード発行によりカードビジネスの成長を加速

ビットコイン

12/9「仮想通貨ビジネス勉強会」を協賛で開催

仮想通貨サービスの導入に向けて、専門家及び金商業者の立場から、具体的な取り組みに向けたディスカッションを行う勉強会を開催

当社代表取締役の奥山も登壇

【テーマ】

「暗号通貨マーケットの現状と導入に向けての準備」



マネーパートナーズグループ 代表取締役社長 奥山 泰全氏

講演

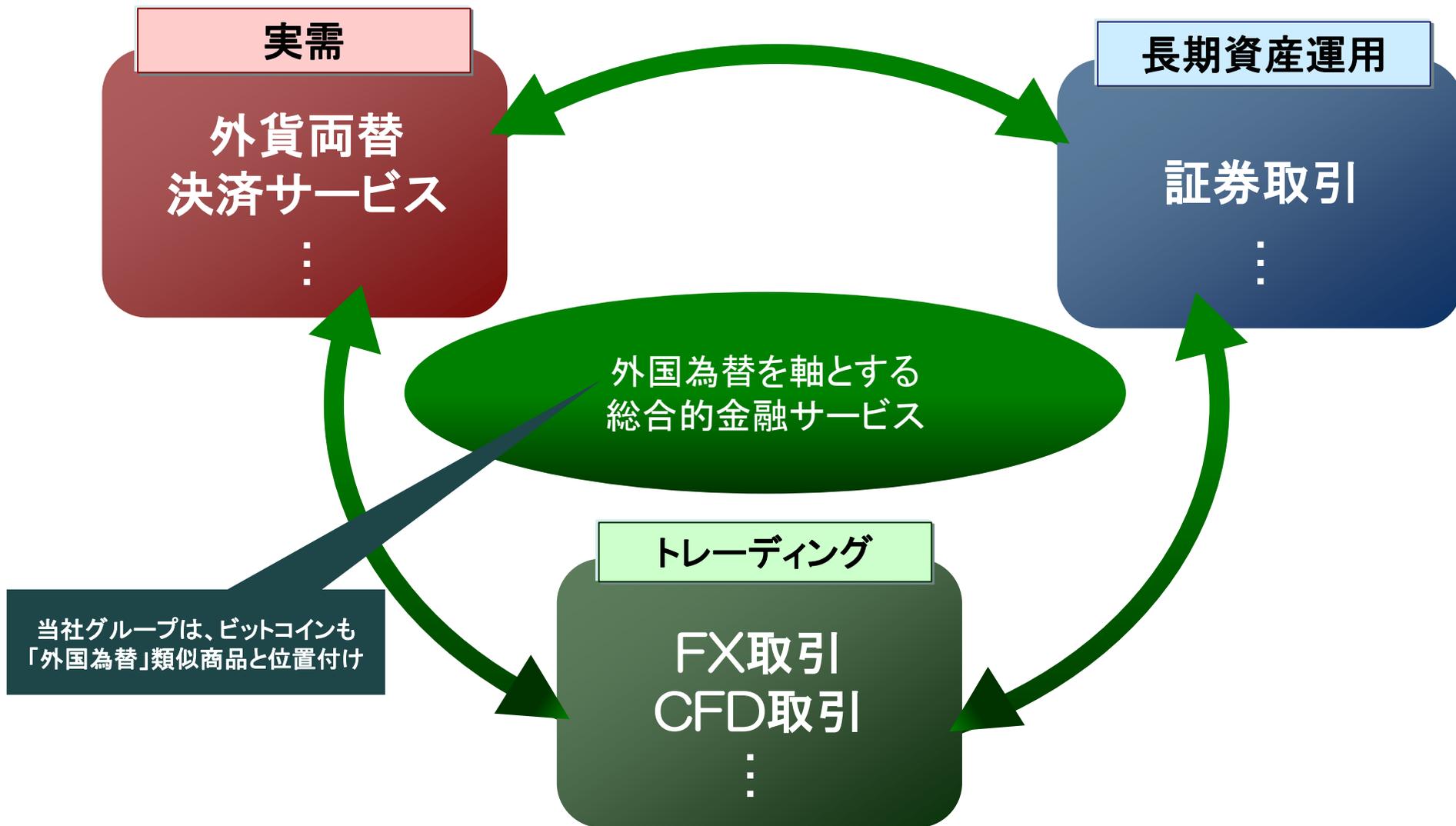
仮想通貨のマーケットの現状と導入にむけての準備



1/18 ビットコイン参考レートをマネーパートナーズのホームページに掲載開始

Ⅲ. 今後の目指すべき方向性





IV. 当社の経営目標及び株主還元について





ROE及び営業収益経常利益率の向上

- 当社は、企業価値の最大化のため自己資本を効率的に活用することを重視しております。
- このために効率的な収益構造の実現を目指して参ります。
- 効率性を計る尺度として、自己資本利益率(ROE)及び営業収益経常利益率を重要な経営指標として位置づけております。

▶ **2016年3月期第3四半期(2015年10～12月)のROEは6.1%**

※: 四半期ROEは、下記計算式により年換算して算出しております。

ROE(年換算) = (四半期純利益 × 4) ÷ ((四半期期首自己資本 + 四半期期末自己資本) ÷ 2) × 100

▶ **2016年3月期第3四半期(2015年10～12月)の営業収益経常利益率は19.4%**



●株主還元について

業績向上に取り組み、株主利益の向上に努める

配当方針

配当性向 … 連結当期純利益の**30%**を目処

配当機会 … **中間及び期末** (年2回)

	2015年3月期				2016年3月期			
	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q
当期純利益(百万円)	21	117	325	314	254	334	173	
上段:3ヶ月	21	139	465	780	254	588	761	
下段:累計								
配当金の総額 (百万円)	45		197		168			
期末発行済 株式総数(株)	32,241,000 (内、自己株式2,002,300)		32,459,900 (内、自己株式2,002,300)		32,616,900 (内、自己株式2,002,300)			
1株当たり 配当金	中間・期末	1.5円		6.5円		5.5円		
	年間	8円						



取扱い商品に係るリスク及び手数料等について

パートナーズFX、パートナーズFXnanoおよびCFD-Metalsは、取引時の価格またはスワップポイントの変動、およびスワップポイントは支払いとなる場合があることにより、売付時の清算金額が買付時の清算金額を下回る可能性があるため、損失が生じるおそれがあります。また、証拠金の額以上の投資が可能のため、その損失の額が証拠金の額を上回るおそれがあります。売付価格と買付価格とは差額(スプレッド)があります。

取引手数料は無料です。ただしパートナーズFXについては、受渡取引に限り、1通貨単位あたり最大0.40円の手数をいただきます。

パートナーズFXおよびパートナーズFXnanoの取引に必要な証拠金は、取引の額の4%以上の額で、証拠金の約25倍までの取引が可能です。法人コースの場合は、取引の額の1%以上の額で、証拠金の約100倍までの取引が可能です。

CFD-Metalsの取引に必要な証拠金は、取引の額の5%以上の額で、証拠金の約20倍までの取引が可能です。国内上場有価証券の売買等に当たっては、最大で約定代金の2.7%の手数料(消費税込み)、最低手数料は取引形態等により異なり最大で2,700円(消費税込み)をいただきます。国内上場有価証券等は、株式相場、金利水準、為替相場、不動産相場、商品相場等の価格の変動等および有価証券の発行者等の信用状況(財務・経営状況を含む)の悪化等それらに関する外部評価の変化等を直接の原因として損失が生ずるおそれ(元本欠損リスク)があります。

取引開始にあたっては契約締結前書面を熟読、ご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願い致します。

〈商号〉株式会社マネーパートナーズ(金融商品取引業者・商品先物取引業者)

〈金融商品取引業の登録番号〉関東財務局長(金商)第2028号

〈加入協会〉日本証券業協会 一般社団法人金融先物取引業協会 日本商品先物取引協会
一般社団法人日本資金決済業協会

2016年3月期第3四半期 決算説明会



Money Partners Group

株式会社 マネーパートナーズグループ